

研究課題名「体組成が慢性肝疾患患者の予後に与える影響」に関する情報公開

1. 研究の対象

2000年1月1日から2020年12月31日の間に当院に通院し、腹部CT検査、体組成分析装置（In body）による体組成評価および握力測定を受けられた慢性肝疾患の方、および「肝硬変患者のサルコペニアにおけるグレリンの役割の解明に関する研究」および「サルコペニアを伴う肝硬変患者に対するホームエクササイズの効果に関する研究」に参加していただき、その際に取得した情報を他の研究に使用することに同意していただいた方

2. 研究目的・方法・研究期間

慢性肝疾患の患者さんに時々見られる筋肉量の減少は予後を悪化させる要因の一つとして考えられています。しかし筋肉量と生活の質、身体機能との関連は十分に明らかにされていません。さらに肥満、特に内臓肥満も予後を悪化させる要因の一つです。しかし肥満の方は筋肉量が維持されていることが多く、筋肉量減少と肥満と予後の関連性は明らかになっていません。本研究は上記期間に肝臓の形の評価や肝細胞癌の有無の評価のために行われたCT、および体組成分析装置から、筋肉量、皮下脂肪量、内臓脂肪量、水分量（これらを体組成と呼びます）のデータを取り出し、それらが身体機能や生活の質、予後にどのように影響しているかについて研究します。この研究を通して、どのような体組成にすることで予後を改善させられるのかが明らかになります。研究期間は本研究が承認されてから2022年12月31日までとなっています。

本研究は以下の医師で構成された組織で行われます。

代表者：名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科・准教授・石上雅敏

分担者：名古屋大学医学部附属病院 消化器内科・病院講師・本多隆

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科・助教・石津洋二

名古屋大学医学部附属病院 消化器内科・病院助教・伊藤隆徳

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科・医員・杉山由晃

3. 研究に用いる試料・情報の種類

性別や年齢、肝臓の機能に加え、CTから計測したおなかの筋肉量、皮下脂肪量、内臓脂肪量、体組成分析装置（In body）により測定した筋肉量、脂肪量、水分量、さらに握力などの情報、生活の質に関するアンケート結果を用いて、研究を行います。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がある場合やご自分の結果の開示を希望される場合は下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方、患者さんが亡くなられている場合はご遺族の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

機関名 名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科

担当者 名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科 助教 石津洋二

住所 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

直通電話番号 052-744-2169

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科 准教授 石上雅敏